

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2016年7月）

目 次

内 政

- ◆スロバキアのEU議長国就任・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◆政党支持率調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

外 政

- ◆ライチャーク外務・欧州問題大臣の中国訪問・・・・・・・・ 3
- ◆キスカ大統領他政府閣僚のNATO首脳会合出席・・・・・・・・ 3
- ◆フィツォ首相のモンゴル、ベトナム訪問・・・・・・・・ 3
- ◆スロバキア・英国首脳会談・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

社 会

- ◆代替燃料に関するナショナルフレームワーク・・・・・・・・ 4

経 済

- ◆財務省の税制改革案・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ◆英国のEU離脱のスロバキア経済への影響・・・・・・・・ 5
- ◆英国のEU離脱に対するジャガー・ランドローバー社の反応 5
- ◆スロバキア中央銀行月報（7月）・・・・・・・・・・・・ 6

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆スロバキアのEU議長国就任（1日）

就任式典におけるフィツォ首相スピーチ：

これは大きな仕事であり、大きな責任である。今後6ヶ月間、我々はEU全体の顔となり声となる。我々は、議長国を務める間、ポジティブなアジェンダ、そして加盟国間に立場の違いがある分野における妥協点を探すことに注力していく。同時に、EUのアジェンダや使用される言葉は市民にとり難しく理解しがたいものであることから、我々は「分かりやすい声」でありたいと考えている。

9月16日にブラチスラバにおいて、この欧州プロジェクトの将来について共に話し合う極めて重要な非公式首脳会合を開催できることは大きな光栄であり、ブラチスラバ首脳会合が、今後10年の間に我々がEUから期待することを明示した出来事としてEUの歴史に刻まれると信じている。

EU議長国、これは我々にとりスロバキアが単なる小国ではなく、EUにおいて責任ある、尊敬に値する国であるということを示すまたとないチャンスである。我々はEUに新たな勢いとインスピレーションを与えたいと考えている。欧州への新たなエネルギー、極めてシンプルであるが、これが議長国を務めるにあたっての我々のモットーである。

◆政党支持率調査結果（7日）

世論調査機関Focusによる7月の政党支持率調査の結果は以下のとおり。Smerの支持率が下がった一方で、野党SaSは過去最高の支持率を集めている。また、3月の選挙で議席を獲得できなかったKDHの支持率は、議席獲得に必要なとなる5%を上回っている。

政党	7月	3月の選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	26.2%	28.3%
SaS（自由と連帯）	16.6%	12.1%
SNS（スロバキア国民党）	13.5%	8.6%
LSNS（我々のスロバキア）	10.7%	8.0%
OLaNO－Nova（普通の人々・独立した人達－新たな多数派）	9.0%	11.0%
Most-Hid（架け橋）	5.4%	6.5%
KDH(キリスト教民主運動)	5.1%	4.9%
Sme ridina（我々は家族）	4.8%	6.6%
Siet（ネットワーク）	1.1%	5.6%

外 政

◆ライチャーク外務・欧州問題大臣の中国訪問（3～5日）

ライチャーク外務・欧州問題相は中国を訪問し、王毅外交部長と会談を行った。両外相は、政治レベル及び省庁間の対話、経済協力、貿易の多様化、投資、科学・研究、教育、文化を含むあらゆる分野での更なる関係発展に対する双方の関心を表明した。また、会談では二国間関係の他に国際機関における協力、スロバキアのEU議長国としての優先課題、中国と中東欧諸国の協力（中国＋16）拡大についても取り上げられた。ライチャーク大臣は「中国の中欧に対する関心の高まり及び一帯一路構想の持つ潜在力が我々の貿易・投資関係の深化につながっていくと信じている」と強調した。

◆キスカ大統領他政府閣僚のNATO首脳会合出席（8～9日）

キスカ大統領、ライチャーク外務・欧州問題大臣及びガイドシュ国防大臣はワルシャワで行われたNATOの首脳会合に出席した。

キスカ大統領はNATO首脳会合において、政府の承認したスロバキアのコミットメントを紹介した。スロバキアは来年、V4の共同訓練ミッションの一部としてバルト三国に最大150人の兵士を送り、最大35個の装備品を提供する。

一方、ライチャーク大臣はポーランド議長国下では初めてとなるV4外相会合にも出席し、V4の議長国としてのポーランドの優先事項及び英国のEU離脱に関する国民投票の結果との関連におけるEU情勢についての協議を行った。

その他ライチャーク大臣はカナダのディオ外務大臣との会談を行い、今秋に調印される予定のEUとカナダの包括的経済貿易協定（CETA）に対する明確な支持を表明した。

◆フィツォ首相のモンゴル、ベトナム訪問（14～19日）

フィツォ首相はASEM首脳会合に出席するためにモンゴルを訪問し、引き続きベトナムを訪問した。フィツォ首相は、モンゴルは発展が期待される国であり貿易関係を深めていく必要があるとの見方を示し、特に鉱業、地質調査、エネルギー、農業といった分野で協力を深めていきたいと述べた。

次いでベトナムを訪問したフィツォ首相は、スロバキアが同国に対して特に情報技術分野において投資の機会があるとの見方を示すと共に「更に金融分野にも可能性がある。輸出入銀行及びいくつかのスロバキア企業が参加するラオスへの大きなパイプライン融資案件が合意に達したことを非常に嬉しく思う」と述べた。フック・ベトナム首相との会談の中では両国間の査証取得義務緩和について話し合われた。

◆スロバキア・英国首脳会談（２８日）

英国のメイ首相は、就任後間もないタイミングでEU議長国であるスロバキアを訪問した。フィツォ首相はメイ首相に対し、９月１６日にブラチスラバで開催されるEU首脳会合の目的について「移民や安全保障の問題及びEUの諸機関とEU市民との間の新たなコミュニケーションのあり方について集中的に議論した。我々はグローバルなアクターとしてのEUの役割について真剣に考え、経済や社会面における新たなテーマの提案もすべきである」と説明した。両首相は会談において、EUと英国の間で行われる交渉において取り上げられることになると思われる主要なテーマについても意見を交わした。フィツォ首相が「メイ首相に対して、現在英国内で働いているスロバキア国民に対する特別な配慮を要請した」と述べたのに対し、メイ首相はEU内で生活し働いているスロバキア人の権利を守るつもりではある、EU内で活動する英国国民も同様の権利を享受できることを期待すると応じた。EUと英国との交渉では単一市場と安全保障についても話し合われることになるが、これにつきフィツォ首相は「この分野ではEUと英国が最大限に協力すべきである」と述べた。

社 会

◆代替燃料に関するナショナルフレームワーク（２０日付スメ紙）

経済省は代替燃料開発枠組み案（National Framework for Alternative Fuels Development）に向けたナショナルフレームワークを策定した。この枠組み案はガソリンや精油に替わる、電気、液化・圧縮天然ガス、水素、液化バイオ燃料といった代替燃料の段階的な普及を支援することを目的としている。例えば、代替燃料に対する補助金や優遇税制措置が想定されている。また、政府は代替燃料の補充ステーションのようなインフラ整備も検討している。この枠組み案では、スロバキアの道路を走る電気自動車の数が現在の５００台から２０２５年には２万台に、圧縮天然ガスの自動車の数も１７００台から１５０００台に増加すると予測されている。他方、政府は水素自動車のためのインフラ整備は考えていない模様である。

経 済

◆財務省の税制改革案（１３日付各紙）

財務省の提案によれば、フィツォ新政権下での財政健全化策には１５％の配当税が含まれる見込みである。現在、配当収入に対して１４％の健康保険税がかけられているが、配当税はこれに代わり２０１８年から導入されることになる。健康保険税は最大でも年間７２００ユーロであるのに対し、配当税にはかかる上限が設けられない予定である。更に財務省はペーパーカンパニー対策と

してEU外の法人に対しては配当税の税率を35%とすることを提案している。

この他、22%の法人税は2017年1月から21%に減税となり、自動車登録税は当該自動車の排気量に加えて使用年数によって変わる事となる。銀行税については、2017年より税率を保有資産の0.1%に下げるという予定が変更され、現行の0.2%で据え置かれる見込みである。更に財務省はタバコに対する増税を提案しており、これが実現すればタバコの値段が2%上昇し、2020年までに2億ユーロの歳入増をもたらす見込みである。また、政府の規制下にある企業（エネルギー、通信、保険業等）の利益に対する特別税は現行の0.363%から0.725%と税率を倍にすることが提案されており、これにより歳入は年間7600万ユーロ増加すると予想される。

他方、財務省の提案には政府の公約であるタックス・ライセンス制度の廃止及び個人事業主の支出に対する標準控除は含まれていない。この提案を連立政権の各党が支持するかどうかは今のところ不明である。

◆英国のEU離脱のスロバキア経済への影響（18日）

財務省の財政研究所は、英国のEU離脱がスロバキア経済を若干鈍化させ、ジャガー・ランドローバー社のニトラ工場の生産開始を遅らせる可能性があるとして予想している。同研究所の予測によると、英国のEU離脱決定は、今年のスロバキアの経済成長率を0.1%~0.2%減の約3%に、2017年は0.3%減の約3.4%に押し下げる見込みである。またスロバキアの労働市場は、英国が残留した場合よりも今後4年間で7千人分少なくなる見通しである。同研究所は経済成長鈍化の理由を、将来の英国・EU関係に対する不確実性が解消されるまで、西欧諸国における投資と貿易が減少するからとしている。

◆英国のEU離脱に対するジャガー・ランドローバー社の反応(27日付スメ紙)

ジャガー・ランドローバー・スロバキアのウォルトバークCEOは、英国のEU離脱は同社の投資計画に影響を及ぼさないことを改めて表明した。同CEOは「ニトラで計画されている工場はユーロ圏への輸出を容易にする。スロバキアへ投資をするという我々の決定は変わらない」と述べた。

ニトラでの工場の建設は今夏終わりに始まる予定で、現在建設業者を選定している。生産開始は2018年後半の予定である。この工場では数種類の自動車を生産し、2800人を雇用する予定である。年間生産量は15万台となる見込みである。

◆スロバキア中央銀行月報（7月）

1 GDP

ユーロ圏の指標は経済活動の減速を示している。5月のユーロ圏の鉱工業生産は前月比で減少し、小売業の売り上げも停滞した。6月以降の動きは、英国におけるEU離脱に関する国民投票後に不安定さを増す金融市場の状況に大きな影響を受けると考えられる。英国の国民投票を受けて国際通貨基金（IMF）及び欧州委員会はそれぞれ最新の経済予測を発表し、共に大きな不確実性と経済の減速への深刻なリスクがその主要なメッセージとなっている。

スロバキア経済は建設部門を除き全般的に好調な動きを継続しており、5月の速報値は2016年第2四半期予測（2016年第2四半期のGDP成長率0.7%）を裏付けている。

2 労働市場

5月の雇用率は前月比で0.1%の上昇と過去3ヶ月との比較では若干鈍い伸びであった。これは第2四半期における雇用率の上昇が前期に比べて緩やかなものになることを示している。5月の雇用率の前年同期比での上昇率は1.5%であった。引き続き主要部門の多くが雇用率の上昇を後押ししている状況にあるが、最近では鉱工業と建設部門において一定の鈍化が見られる。特に建設部門では過去数ヶ月にわたり生産の大きな増加が見られず、これは雇用にも影響を与えている。

季節調整前の登録ベースでの失業率は前月と同じ9.45%であった。求人数は過去との比較において多い状態が続いており、今後更なる雇用率の上昇と失業率の低下をもたらす可能性がある。

3 物価

6月の物価は前年同期比で0.7%下落したが、前月比では食料品とエネルギー価格が若干上がったことを受けて0.1%上昇した。2月以降のブレント原油価格の上昇基調は6月も継続しており、これは燃料価格の上昇に反映されている。労働市場における前向きな動きと賃金の上昇は需要を刺激してサービス価格の上昇を徐々に加速させる可能性がある。本年後半には物価の下落傾向は底を打ち、2016年の平均物価は前年比で若干のマイナスという水準になると考えられる。2016年末の物価上昇率は0%、2017年第1四半期は1%、同上半期は1%前後で推移すると予想される。

4 貿易

5月の商品輸出は前期比で2.7%増加し、中でも石油精製品の輸出が最も大きな伸びを示した。電機製品と冶金製品は輸出に見合った生産の増加が見られないことから、全体として在庫製品の輸出も多かったものと考えられる。前年同期比で見ると5月の輸出は10.2%、輸入は10.4%それぞれ増加した。黒字額は1億9900万ユーロに達した。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

